

今号は、もちろん生活発表会の特集ですが、その前に、ばら組さん、すみれ組さんの遠足の様子と収穫祭の様子を紹介します。ですが、ばら組さんの遠足に私は同行しませんでしたので、ばら組さんについては、行く前と到着してからの様子といたします。ご了承ください。



ばら組さんとすみれ組さんは、福島市にあります「十六沼公園」で遊び、「果樹園」でリンゴ狩りをしました。

十六沼公園にあります「ぴよんぴよんドーム」は、それこそあがると「ぴよんぴよん」するので子どもたちには大人気でした。

果樹園では、自分がほしいリンゴを見つけ、自分でとりました。高い所は、お店の人や先生にだっこしてもらいました。

収穫祭も秋晴れの下、行うことができよかったです。みんなの力でおいしいおもちをつくことができました。



一人一人の魅力が結集した生活発表会！！

一人一人の衣装が、とても素晴らしかったです！ 一人一役の衣装系の皆様、とってもすばらしい衣装をつくっていただき、ありがとうございました。

一人一人の演技が、とても素晴らしかったです！ 園児の皆さんは、お家の人に見てもらうために、一生懸命練習に励んでできました。一人一人が自分なりの表現で発表することができました。素晴らしかったです。一人一人の魅力が結集したすばらしい生活発表会でした！



【もも組】<ス・マ・イ・ル>

<ウキウキパレード>



【ばら1組】<やんちゃ怪獣どっかーん！>

<くだものカーニバル>



<おもちゃのチャチャチャ>

【ばら2組】<しんかんせんでゴーゴ・ゴー>



<おしゃれなおたまじゃくし>

【すみれ1組】 <ともだちほしいなおおかみくん>



<Make you happy>



【すみれ2組】 <さくらさらさら>

<長靴をはいた猫>



【さくら1組】 <おおかみと7ひきのこやぎ>



<Time after time ~花舞う街で~>



【さくら2組】 <ねずみのよめいり>



<アイドル>

前回ぼっきりと思っていたのですが、今回も紹介したいコラムがあったので紹介させていただきます。今回は、一般財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構発行の『まなびの広場—子ども未来を共に考える— VOL.9』という冊子からです。この冊子もほとんどの幼稚園が購入

していて、偶数月発行です。

～（一財）全日私幼研究機構理事長からのご報告～

子どもは何故遊ぶのか、遊ばなければならないのか

一般財団法人全日私立幼稚園幼児教育研究機構 安家 周一

子どもたちの遊びを見ていると、幸せそうだな～と思う時や不思議だな～と思う時が何度もあります。女の子はママごとやお店屋さんごっこを好む傾向があり、ママごとなどでも、最近主役はお母さんよりペットのほうに人気があるなど、喜べない変化もあるようです。男の子によくある遊びは「戦いごっこ」です。特にテレビやYouTubeなどのメディアで、のべつ幕なし無料で配信される様々な番組を見ている男の子は、「戦いごっこ」が大好きです。小生の満3歳の男の孫もご多分に漏れずラットの芯をもっては、「ジイジけんかしよう。チョスツ・バシ！！」と襲い掛かります。私が切られ役でバチバチ叩かれ二人して遊んでいると、このまま放置していいんだらうかと母親は心配顔です。子ども同士が体をぶつけあって遊んでいる様子を見ると野蛮そうなので、思わず「やめなさい！」と制止したくなるのではないのでしょうか。

一方、動物園の猿、実験用のラット、昔、我が家で生まれた子犬たちも、くんずほぐれつじゃれあい、取っ組み合い、かみ合いを繰り返しています。決してYouTubeを見ている訳ではないのにです。ラットの研究では、よく仲間とじゃれて遊んだラットと、遊ばせなかったラットと比較する研究があります。幼いころに仲間から隔離されたラットは、成長した時仲間のラットと関わるのが難しくなることが判明しています。

荒っぽい遊びをしていたラットはそうでないラットよりも柔軟に、臨機応変に対応できるようです。このように哺乳類に普遍的とも思えるじゃれ合う遊び方を見ていると、人の育ちにとって大切な育ちの意味があるのではないかと思います。私たち人間には、他の哺乳動物と比較して子ども時代が長く用意されています。変化にとんだ複雑な社会的状況を一瞬で捉え、直感的に対応できる能力を持つことにつながり、頭がよく社会的であるとみなされます。社会的協調性を司るのは「前頭葉の特定の部位」が重要な役割を果たしていると考えられています。

遺伝的にはチンパンジーなども私たちに似通っていますが、子ども時代はせいぜい3～4年位で、その後、群れから離れ他の群れの中で生活するといわれます。人間の子どものほぼ全てが遊んで過ごしますが、他の動物と比較して大きな脳を育てるには長い子ども時代が必要なのです。すべての遊びに共通する5つの定義として、

- ・遊びは仕事ではない
- ・遊びはただの無駄な作業ではない
- ・遊びは楽しい
- ・遊びは自然発生的なものだ
- ・遊びは他の基本的欲求、食物や水やぬくもりを求める欲求とは違う

遊びは大人から与えられるものではなく、子どもの内側から湧き出る強い欲求に支えられているわけで、これを保証するのが私たち乳幼児教育・保育に携わる教員、保育者です。

現代はなかなか正規の仕事を見つけるのが難しく、バイトや非正規をつないで生きている成人が多いと報道されます。またそのような人は結婚をあきらめる傾向があり、出生率の減少の大きな原因とされています。小さい頃の遊びに興ずる環境が奪われることは、少子化の根本原因とも言えます。

私たち大人は、相対的に早く字が書けるようになるなど早く発達をしている子どもを見て「すごいね～」などといふ言葉をかけてしまいます。人間にとって長い子ども時代の根拠を持たない自己有能感・肯定感はとても重要で、他児と比較される相対的な評価は不要です。この時期をいかに長く生ききるかが、その人の一生を左右する可能性が高いことがわかります。

幼児期は「人生の基盤を育成する最も重要な教育」と定義されるように、すべての子どもの時間・仲間・空間がとても重要でそれを保護する大人の存在が鍵なのです。乳幼児期の育児や教育に携わる人達が、日本の最大の課題に向き合わなければならないのです。

~~~~~  
月並みな言い方になってしまいますが、早いもので1年があつという間に終わろうとしています。今年は、新型コロナウイルスが5類となり生活習慣が以前のようにほぼ戻ったことは何よりの「幸」でした。それでは、本年最後の言葉を記します。

**来年が幸多き一年となりますよう心からお祈り申し上げます**